

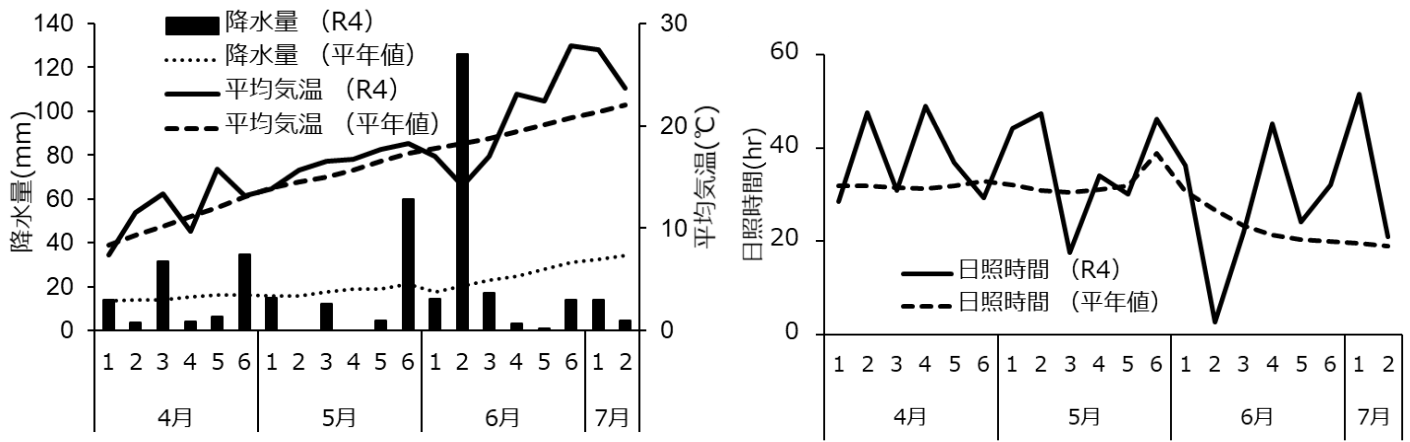
仙台稲作情報 2022 (第5号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL : 022-275-8410 FAX : 022-275-0296
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai> E-mail : sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

栽培管理のポイント

- ▷追肥は稲の葉色や生育ステージを確認して適切に実施しましょう。
- ▷ほ場を見回り、いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。
- ▷斑点米の発生防止のため、水田周辺の草刈りを適期に実施しましょう。

1 気象経過



○梅雨入り・梅雨明け(東北南部) ※速報値
 <梅雨入り> 6月15日頃 平年より3日遅い 昨年より4日早い
 <梅雨明け> 6月29日頃 平年より25日早い 昨年より17日早い
 (統計を開始した1951年以降、最も早い6月中の梅雨明け)

2 管内の生育状況 (7月11日の調査結果)

(1) 移植栽培 (ひとめぼれ)

- ・草丈は63.6cmで前年及び平年より長く、茎数は509本/m²で前回調査より減少していることから最高分けつ期は過ぎたものと見られます。葉色(GM値)は37.0で、幼穂形成期の目安(38~40)より低下して(淡くなって)います。
- ・幼穂長は4.4mmとなっており、「幼穂形成期」に入りました。

表1 7月11日の調査結果

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉色値 (GM値)			幼穂長 (mm)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区	5/15	63.3	107	108	379	87	91	40.8	+2.0	+0.7	1.3	-1.5	-0.4
	北部平坦	大郷町鶴崎	5/16	64.3	102	107	569	102	97	37.6	-1.4	-2.3	2.5	+0.5	+1.3
	西部丘陵	仙台市泉区	5/11	63.2	105	104	579	94	111	32.6	-4.9	-8.2	9.5	+0.8	+3.5
	管内平均			63.6	105	106	509	94	100	37.0	-1.4	-3.2	4.4	-0.1	+1.5
ササニシキ	北部平坦	大和町鶴巣	5/12	65.2		106	456		77	39.0		-2.6	2.6		+1.6
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/7	68.3	110	108	562	103	108	39.8	±0.0	-1.0	3.2	-0.4	+1.0
	管内平均			66.8		107	509		93	39.4		-1.8	2.9		+1.3
だて正夢	北部平坦	大郷町土橋	5/20	64.9	103	101	416	101	95	40.1	+0.8	-0.8	0.5	+0.5	+0.4
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/10	75.5			426			38.8			3.0		
	管内平均			70.2			421			39.5			1.7		
金のいぶき	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/18	59.5			436			39.1			0.2		

※平年とは、直近3か年の平均値。ただし、大和町鶴巣「ササニシキ」は、前年(R3)の調査を実施していないため、平成30年から令和2年までの3か年平均。

(2) 乾田直播栽培

草丈は 62.4cm, 茎数は 684 本/m²となっています。葉色 (GM 値) は 38.8 で, 前回より低下しました。幼穂が確認され (長さ 0.6mm), まもなく幼穂形成始期 (幼穂長 1mm) に入る見込みです。

表 2 7月11日の調査結果

場 所 (地帯区分)	播種日 (月/日)	出芽日 (月/日)	苗立数 (本/m ²)	6月10日		6月20日			7月1日			7月11日			
				草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM値)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM値)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM値)	幼穂長 (mm)
仙台市若林区 (仙台湾沿岸)	4/10	5/11	142	19.1	228	31.4	325	42.2	51.6	623	43.5	62.4	684	38.8	0.6



6/10 生育状況



6/20 生育状況



7/1 生育状況



7/11 生育状況

3 生育ステージの予測 (古川農業試験場, 7月1日現在)

地域区分別の生育ステージの予測は以下のとおりです。

表 3 地帯区分別の生育ステージの予測

地帯区分	幼穂形成始期 始期 ~ 終期	減数分裂期 始期 ~ 終期	出穂期 始期 ~ 終期
北部平坦	7/5~7/17	7/15~7/27	8/2~8/11
南部平坦	7/4~7/17	7/14~7/27	7/31~8/10
仙台湾沿岸	7/5~7/17	7/15~7/27	8/2~8/11
西部丘陵	7/8~7/18	7/18~7/28	8/5~8/13
山間高冷	7/11~7/21	7/21~7/31	8/10~8/18

注 1) 生育予測に用いるデータ ①日別平均気温(アメダス), ②移植時期 (県平均の始期 5/3, 終期 5/22), ③移植時の葉数 (県平均値 3.0 葉)

注 2) 6月30日までアメダスデータ実測値を使用, 7月1日以降はアメダス平年値を使用

注 3) 対象品種 「ひとめぼれ」, 「ササニシキ」

表 4 生育ステージの目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1~2mm	—	25~20日
減数分裂期	30~120mm	-10~0cm	15~10日

4 本田管理

(1) 移植栽培

1) 水管理

- ・ **幼穂形成期に入りました。** 出穂期までは飽水管理とし, 土壌を酸化的に保ち根の活力を維持しましょう。
- ・ 幼穂形成期から減数分裂期に, 日平均気温 20℃以下が長期間続く場合や最低気温 17℃以下の場合は障害不稔が発生する危険性が高くなりますので, できる限り深水管理を実施しましょう。

※幼穂形成期: 水深 5~10cm, 減数分裂期: 水深 20cm が望ましい

2) 追肥

- ・葉色（ひとめぼれ）は前年及び平年に比べて低下しています。ほ場をよく観察して適切な追肥を行い、穂揃期の葉色維持に努めましょう。（表5及び表6）
- ・ほ場により生育が異なるので、幼穂長による生育ステージの確認を必ず行いましょう。（表4）
- ・「だて正夢」は葉色が濃い品種です。周辺ほ場に比べ色が濃くなり、追肥を抑えられがちですが、穂揃期の葉色維持による登熟向上に向けて、適正な追肥を実施しましょう。
- ・「金のいぶき」の葉色は幼穂形成期頃から「ひとめぼれ」より淡く推移しますので、追肥をする際は葉色に注意しましょう。
- ・基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合や復元田の場合は、倒伏が懸念されるため、原則として追肥は行いません。

表5 生育ステージにおける葉色の目安 ※葉緑素計（GM値）

品 種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ	38～40	35～37
ササニシキ	34～36	32～34
だて正夢	40～42	37～39
金のいぶき	33～35	30～32
つや姫	35～37	31～33
まなむすめ	35～37	36～38

表6 追肥の目安

品 種	窒素施用量（成分量/10a）	
	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ・金のいぶき	1.0kg	1.0kg
ササニシキ	—	1.0～1.5kg
つや姫・まなむすめ	2.0kg	—
だて正夢	— （茎数が少ない場合は1.0kg）	2.0kg （幼穂形成期に1.0kg追肥した場合は1.0kg）

3) 病虫害防除

①いもち病

- ・6月下旬には、概ね県内全域に葉いもちの「感染好適条件」が出現しており注意が必要です。管内においても発生を確認しています。
- ・上位葉での葉いもちの発生は、穂いもちの重要な伝染源になります。ほ場をよく観察し、発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・特に、窒素過剰により稲が軟弱徒長気味で葉色が濃いほ場は、早期発見、早期防除に努めましょう。
- ・また、追肥後は一時的に稲体窒素濃度が高くなり、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので発生に注意しましょう。
- ・穂いもちの予防剤は、出穂30～5日前に使用する剤が多いので、生育状況をよく観察し、出穂期の予測に基づき適期に散布しましょう。



進行型病斑

【参考】BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、病虫害防除所のサイトをご覧ください。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

②紋枯病

- ・高温で降雨日数が多いと株間の湿度が高まり、幼穂形成期頃から発生が目立つようになります。
- ・前年に発生が多かったほ場では多発のおそれがあります。穂ばらみ期の水面施用剤、出穂期頃の茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤（液剤、水和剤、粉剤）がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。

③稲こうじ病

- ・穂ばらみ期に低温で降雨日数が多い条件下で発生しやすくなります。
- ・ほ場に残った菌核などが伝染源となるため、前年に多発したほ場では注意が必要です。
- ・銅剤は予防効果が高く、出穂 20～10 日前が散布適期です。

④斑点米カメムシ類

- ・水田周辺にある牧草地や雑草地では、斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、7月中旬までに草刈りを行いましょう。
- ・水稻の出穂前後の畦畔の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稻が出穂する 10 日前までに行います。出穂期の予測を参考に作業の計画を立てましよう。

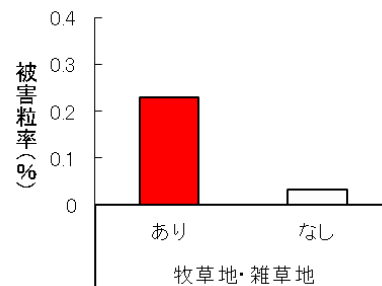


図 1 水田周辺の牧草地・雑草地の有無別の斑点米被害粒率
(令和 3 年 宮城県病害虫防除所)

(2) 乾田直播栽培

基本的には移植栽培と同じ管理となりますが、以下の病虫害の発生に注意しましょう。

1) いもち病

直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、感染のタイミングが遅れる傾向があります。ほ場を見回り、早期発見・早期防除に努めましよう。

2) イネツトムシ

通常は 8 月上旬頃から加害が始まります。特に葉色が濃い部分に産卵されることが多く、直播栽培で問題となることがありますので発生に注意し、防除が遅れないようにしましよう。

5 東北地方の向こう 1 か月の天候の見通し (7/7 仙台管区气象台発表)

予報のポイント

- 暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。
- 期間の前半は気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう 1 か月の降水量は平年並か多いでしょう。

■農薬危害防止運動実施中 (6/1～8/31)

宮城県では、6 月から 8 月にかけて農作物等の病虫害が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましよう。

次回の稲作情報第 6 号は、7 月 20 日に実施する生育調査の結果をもとに 7 月 21 日頃の発行となります。